

平成19・20年度文部科学省委嘱
道徳教育実践研究事業
(伝え合う力を養う調査研究事業)

ねらいに即した実践的研究の
進め方について

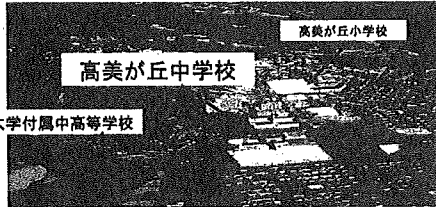
平成20年5月20日
広島県東広島市立高美が丘中学校

高美が丘中学校の紹介

高美が丘中学校

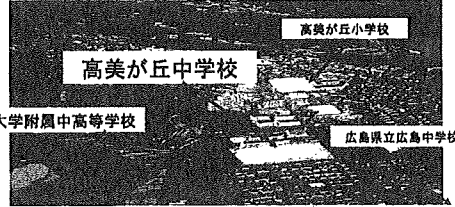
広島県東広島市高屋高美が丘一丁目1番1号

平成3年開校(創立18年目)
生徒数:398名,学級数:15学級
小中単一校区(高美が丘小学校→高美が丘中学校)
高屋町(5小学校・4中学校・2高等学校・1大学)

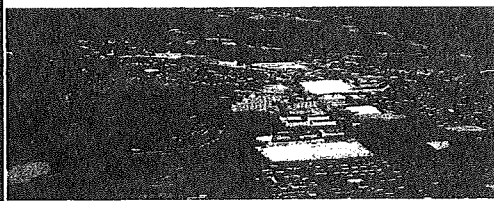


高美が丘小学校

- 高美が丘中学校
- 近畿大学附属中学校(徒歩通学圏内)
- 広島県立広島中学校(徒歩通学圏内)



学校・家庭・地域の教育力を結集して
○お互いの考えや気持ちを伝え合う力
○生活上における問題を言葉の力や
体験の力で解決する力
を高める

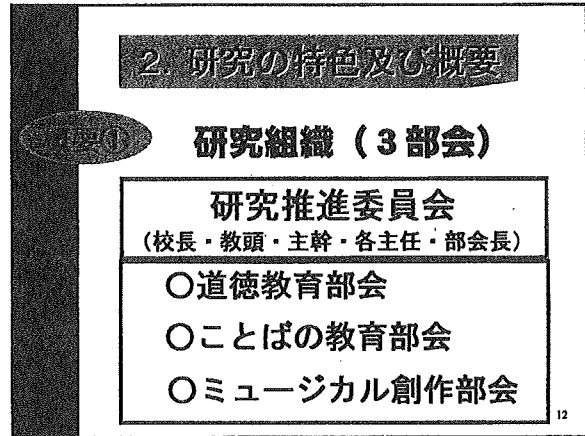
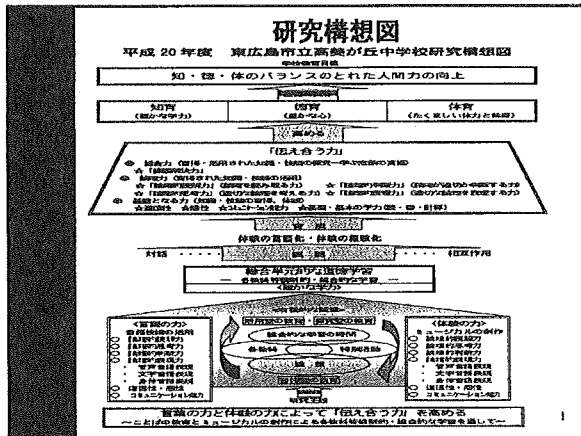
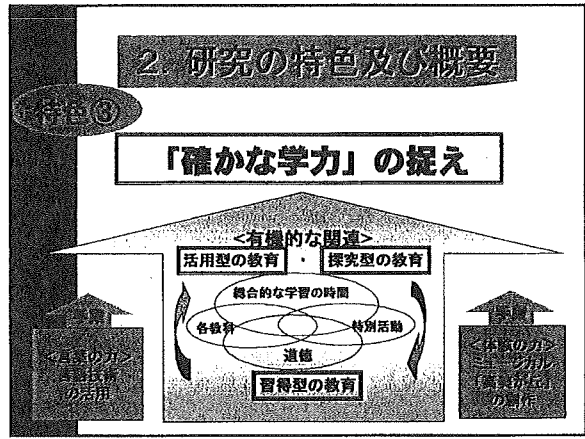
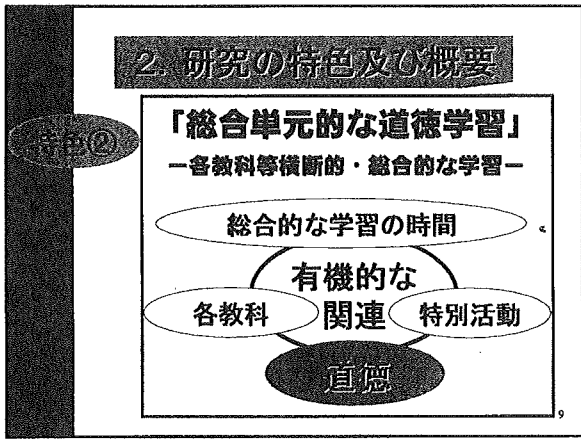
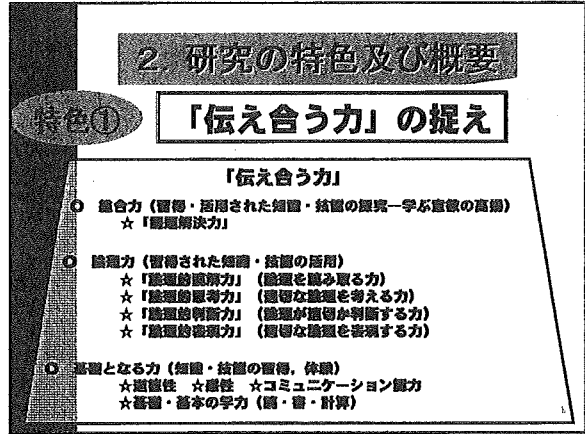
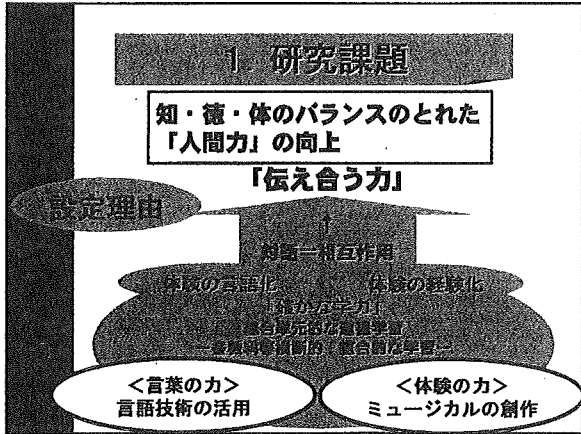


1. 研究課題

<研究主題>

言葉の力と体験の力によって
「伝え合う力」を高める

—ことばの教育とミュージカルの創作による
各教科等横断的・総合的な学習を通して—



2. 研究の特色及び概要

概要②

研究仮説

言葉の力（ことばの教育—言語技術の活用等）と体験の力（ミュージカルの創作等）を通して、相互作用（対話）を成立させることができれば、「伝え合う力」（自分の気持ちや考えを相手に適切に伝える力）を生徒に身につけさせることができるであろう。

2. 研究の特色及び概要

概要③

研究内容

- 道徳の授業における「対話＝相互作用」の成立と「道徳的思考」の深まり
- 「言語技術の活用」や「ミュージカルの創作」による「活用型・探究型の教育」の創造と「伝え合う力」の高まり

2. 研究の特色及び概要

概要④

3部会に共通する研究のポイント

研究推進委員会

（道徳教育・ことばの教育・ミュージカルの創作）

○対話の成立

～生徒同士の相互作用

2. 研究の特色及び概要

概要⑤

「伝え合う力」を高める手段①

道徳教育部会・ことばの教育部会

「言語技術」を活用した各教科等（各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間）の授業によって「伝え合う力」を高める

↓

言葉の力

2. 研究の特色及び概要

概要⑥

「伝え合う力」を高める手段②

ミュージカル創作部会

ミュージカル「高美が丘」の創作（総合的な学習の時間）によって「伝え合う力」を高める

↓

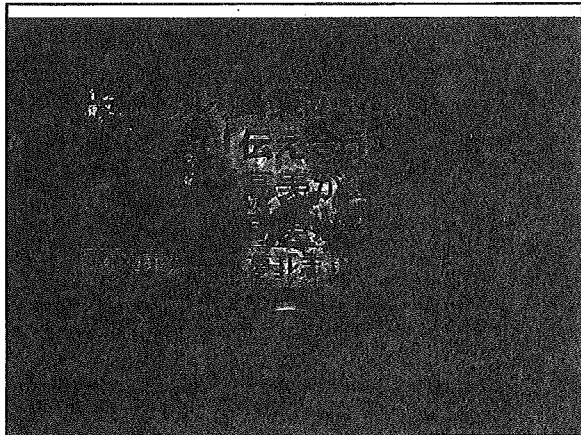
体験の力

2. 研究の特色及び概要

概要⑦

研究方法

- ①生徒の実態や変容の把握に係る調査研究（アンケート）
- ②「伝え合う力」の捉えに係る文献研究
- ③実践理論の行動化に係る実践研究



ミュージカル「高美が丘」創作のプロセス

- (1) ゲストによる指導
(自己表現の方法を知り、目標を設定する)
- (2) パート及び全体での活動
(自己の役割を知り、主体的に活動する)(相互作用の充実を図る)
- (3) 一次発表会
(自己の有り様を知り、課題解決を図る)
- (4) 二次発表会
(全体との関わりを知り、論理的表現力を高める)
- (5) リハーサル
(理想的な表現を求めて、協働による創作の喜びや充実感を感得する)
- (6) 最終発表会
(ミュージカルを成功させ、自己存在感・自己有能感・自己有用感を感得する)
(他者理解を図り感動を共有する)

創作段階(1)

- 第1段階: 台詞を覚えて音声言語表現ができる。
- 第2段階: 身体言語表現ができる。
- 第3段階: 脚本の内容を理解した音声言語表現及び身体言語表現ができる。
- 第4段階: 創作活動の場で、自分の思いを出すことや相手の思いを理解して表現しようとする。(相互作用①)
- 第5段階: 他のキャストや他の係の人に自分(達)の思いを伝えたいの表現を工夫し合う。(相互作用②)

創作段階(2)

- 第6段階: 観客に自分たちの思いを伝えるための表現を工夫する。またお互いの演技に対して、助言できるようになる。
- 第7段階: 脚本の内容を自分のこととして捉えることができ、文字言語及び身体言語の表現力が上がり、内容が伝わってくるようになる。
- 第8段階: 7段階が高まるにつれ音声言語表現や身体言語表現の必要性を感得し、表現内容をいっそう高めようとする。
- 第9段階: 誰が見ても納得のいく表現ができる。
- 第10段階: ドラマ化する(脚本に頼らずに表現することができる)。

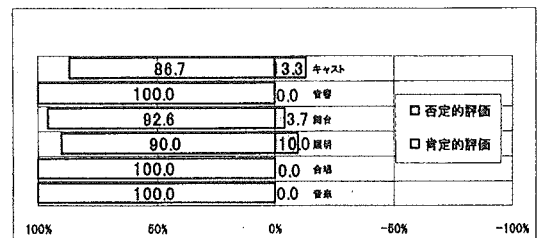
「伝え合う力」の捉え

- (1)「道徳性」互いの立場を尊重し合い、協力合って創作活動ができるようになる。
- (2)「感性」ミュージカルのよさ・すばらしさがわかるようになる。
- (3)「コミュニケーション能力」相手の気持ちを理解し、ことばを通して適切にかかわることができるようになる。
- (4)「論理的読解力」脚本の内容・背景を理解して、読み取ることができるようになる。
- (5)「論理的思考力」どのようにすれば演出効果を上げることができるのかを考え、工夫改善することができるようになる。
- (6)「論理的判断力」脚本の読取りや演出効果について思考を深めることを通して、自己の役割をどのように果たすことが適切であるかを判断することができるようになる。
- (7)「論理的表現力」自分の思いや求められていることを適切に表現できるようになる。

ミュージカル創作の成果と課題

自己評価アンケートより 平成19年10月3日

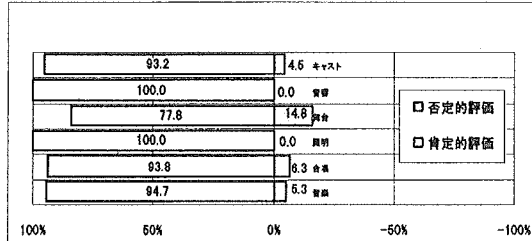
(1) 協力して創作活動ができるようになりましたか。
【道徳性】



ミュージカル創作の成果と課題

自己評価アンケートより 平成19年10月3日

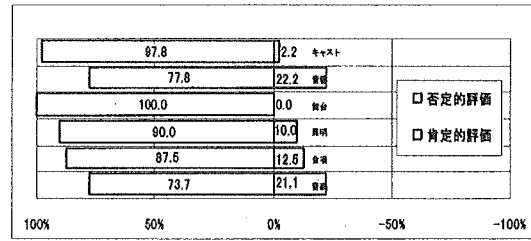
(2)脚本を理解して、創作活動ができるようになりましたか。〔論理的読解力〕



ミュージカル創作の成果と課題

自己評価アンケートより 平成19年10月3日

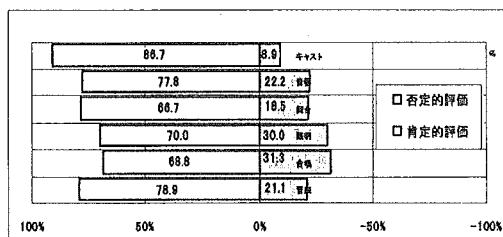
(3)各係で創作内容をよく考え、工夫改善することができるようになりましたか。〔論理的思考力〕



ミュージカル創作の成果と課題

自己評価アンケートより 平成19年10月3日

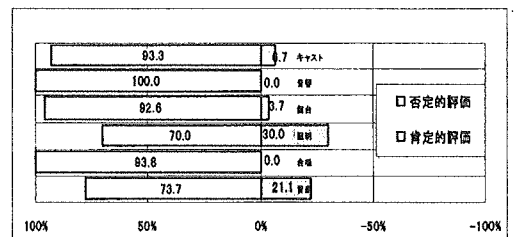
(4)自分の思いを適切に表現することができるようになりましたか。〔論理的表現力〕



ミュージカル創作の成果と課題

自己評価アンケートより 平成19年10月3日

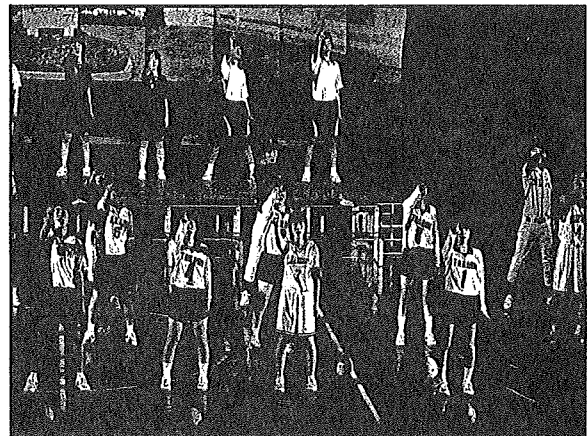
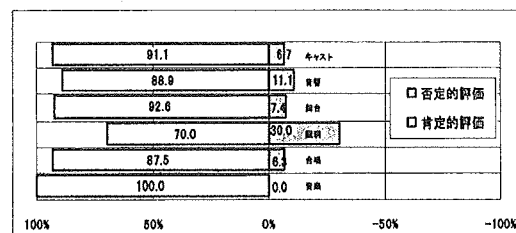
(5)相手の気持ちを理解しながら適切にかかわることができるようになりましたか。〔コミュニケーション能力〕

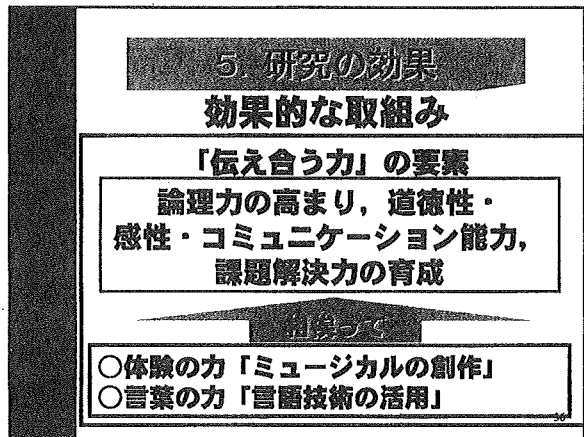
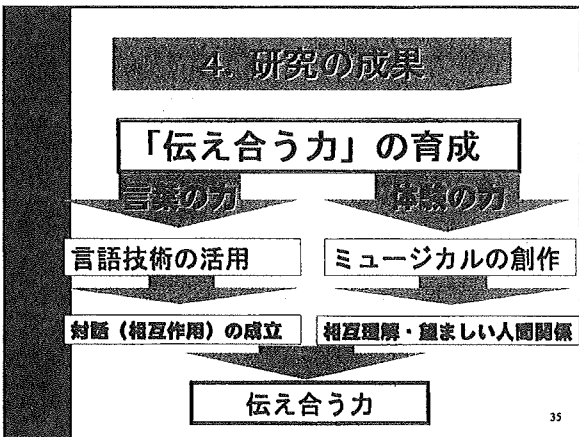
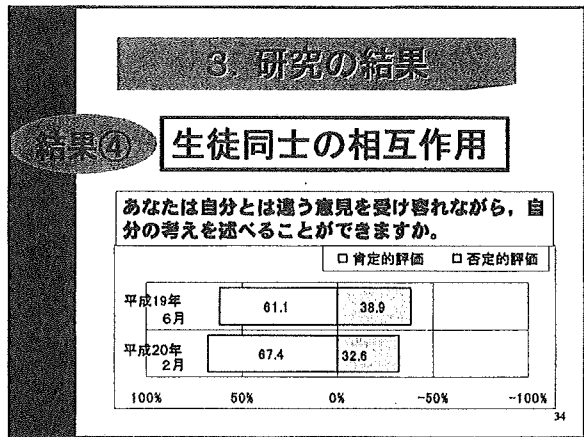
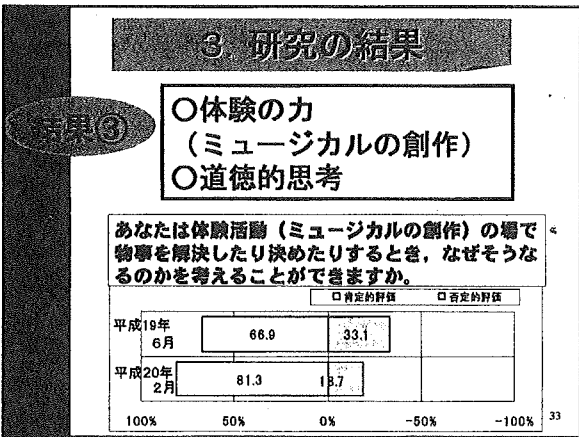
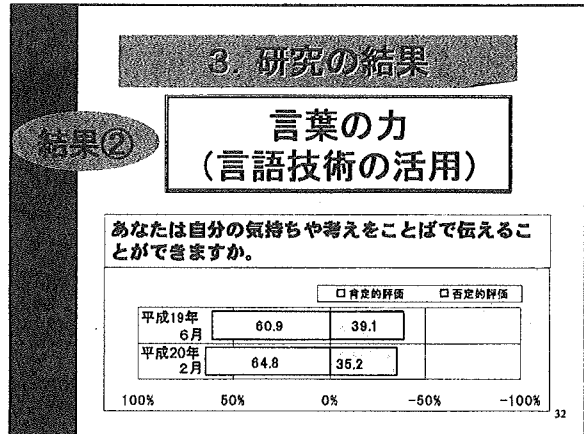
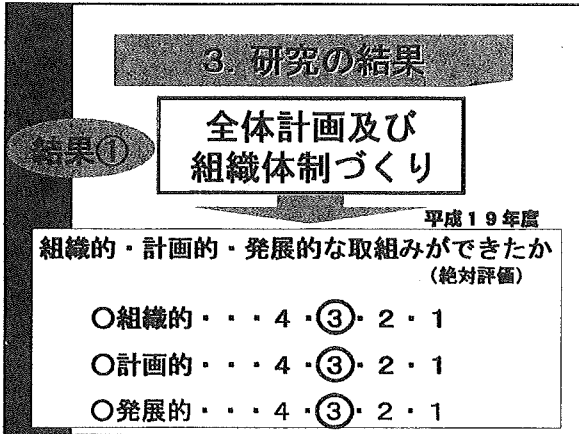


ミュージカル創作の成果と課題

自己評価アンケートより 平成19年10月3日

(6)ミュージカルのよさがわかるようになりましたか。〔感性〕





6. 今後の課題

「伝え合う力」の更なる高まり

各教科等横断的・総合的な学習
(総合単元的な道徳学習)

言葉の力と体験の力による
「活用型」・「探究型」教育の創造

「道徳的思考」の深まりを意図
(道徳性発達段階を意図)した相互作用の成立

